

2016.01/No.147

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

濃いっ!阪大

発祥の地「中之島」

Topics

西尾章治郎総長
平成28年 年頭挨拶

Contents

Topics

- 03 西尾章治郎総長 平成28年 年頭挨拶
- 10 大阪大学シンポジウム開催

濃いっ! 阪大

12 大阪大学 発祥の地「中之島」

- 18 役員室だより
- 30 阪大の組織 A to Z「渉外本部」
- 32 表彰・受賞等／人事／訃報
- 33 ほっとニュース
- 35 Information



【表紙写真】「中之島」の風景

西尾章治郎総長 平成28年 年頭挨拶



1月4日(月)、大阪大学コンベンションセンターにおいて、西尾章治郎総長から教職員に対して新年の挨拶が行われました。総長就任後初めてとなる今年の挨拶の冒頭で、昨年いくつかの不正事案について触れ、「大阪大学の構成員一人ひとりが不正の重大性を自覚し、今一度厳しく自らに問い直し不正の根絶と信頼回復に努めなければならない」と呼びかけました。

また、現在鋭意策定している「OU(Osaka University)ビジョン2021」の柱となる5つの「Openness」について説明があり、「この1年間を構成員の皆様と元気に頑張りましょう」と挨拶を締めくくりました。

※次ページより全文を掲載しております。

年頭所感 2016 — OU (Osaka University) ビジョン 2021 —



1. はじめに

皆さま、明けましておめでとうございます。気持ちも新たに2016年を迎えられたことと思います。総長就任後、初めての年頭のご挨拶をさせていただきます。

まず、皆さまとともに気を引き締めなければならないことがあります。本学において、昨年、公的研究費の不正使用、不正経理、個人情報の漏えいなどの不正事案が相次いだことは誠に遺憾であります。年頭のご挨拶で、皆さまに対してこのようなことを申し上げることは、総長として大変残念でなりません。

特に国民の税金で成り立っている公的研究費を不正に使用することは、大学に対する国民の信頼と期待を大きく損なうものであり、ひいては我が国の学術研究の基盤さえも揺るがしかねません。そのような認識のもとに、私たちはかねてより「公的研究費の使用に関する行動規範」を策定し、不正使用防止に取り組んできました。

しかし、そうした努力にもかかわらず、公的研究費の不正使用が起ってしまいました。私たちはその事実を真摯に受け止め、大阪大学ではもう二度と不正使用は起こさないという決意と行動を社会に対して示さなければ

なりません。不正使用の根絶に向けて全学をあげて取り組み、国民からの信頼の回復に努めなければなりません。

具体的な再発防止策として、チェック体制をより強固にした会計処理システムを導入し、全教職員がこのシステムを確実に使用することとします。また、本学の構成員にコンプライアンス意識を定着させるための教育と啓発活動を、丁寧に徹底して実施します。つまり、物理的な方策と意識改革の両面から抜本的な対策を講じ、確実に不正使用防止を図ります。

不正使用の根絶には、まずもって大阪大学の構成員の一人ひとりが不正使用の重大性を自覚することが重要です。私たちは、今一度厳しく自らに問い直し、信頼回復に向けて進まなければなりません。

2. 刷新事業の確実な実行

時代は大きく変わっています。国立大学法人を取り巻く環境も、昨年10月に財政制度等審議会が提案した国立大学法人運営費交付金の削減計画に象徴されるように非常に厳しい状況です。他方でめまぐるしく動く世界

の政治経済と同様、学術の世界でも、革新を目指すスピードは劇的に勢いを増していますが、同時に永遠の真理を探究するという地道な営みも決してなおざりにはできません。より限られたリソースでより多くをこなすことがいま、私たちには課せられています。敢えて言うならば、私たちは、現状に安住することも、単に過去を踏襲することも、もはやどちらも不可能な段階に来ていることを認めざるを得ません。

このような状況の中で、私は総長に立候補するにあたっての所信表明書で述べた「本学の構成員一人ひとりの真の価値、『真価』を大学のさらなる『進化』、すなわち evolution につなげていくための持続可能で力強い礎を築いていく」という目標を一日たりとて忘れたことはありません。この年頭にあたり、私は所信表明書で述べたことを自身の「初心」あるいは「初志」として改めて心に刻み、6年間の任期を通じ、確実に貫徹してまいりたいとの思いを新たにしております。

所信表明書では、全学的な総意のもとで見直すべきものは刷新事業として速やかに見直しを敢行し、併せて五つの基本方針に沿った新機軸事業の積極的な提案およびその実行を行なうことを誓いました。

まず、刷新事業については、「室体制」の再構築、定年延長に伴う64歳、65歳の給与改定に関する方針の見直し、シュプリング社電子ジャーナルの包括契約の継続等、既にさまざまなことを断行しました。また、スーパーグローバル大学構想を着実に進め、大学のグローバル化に向けた体制を堅固なものにすべく努めております。特に申請の際の手続きにおいて、学内合意を十分にとらなかつたことを反省し、改めて学事暦、留学生増加策、英語教育刷新などについて全学的検討を進めています。

一方、新機軸の積極的な提案およびその実行については、「OU (Osaka University) ビジョン 2021」を現在鋭意策定中であり、本年度中に構成員の皆さまの合意を経て最終確定し、その実行に邁進したく考えております。

3. OU ビジョン 2021

本年4月から国立大学法人は、いよいよ第3期中期目標期間を迎えます。グローバル化が急速に進む世界にあって、この大阪の地に根ざしつつ、より一層の競争力を持つ学問の府として次世代を担う人材を育てていくという本学の役割はますます高まっています。

そのような状況のもと、現在、文部科学省が計画して

いる「特定研究大学制度」改め「(仮称) 指定国立大学法人制度」をはじめ、卓越大学院、卓越研究員など、高等教育施策の新たな展開に対して積極的に取り組んでまいります。なかでも、指定国立大学法人制度には、我が国の大学改革のフロントランナーとして制度設計の段階から関わり、先導的な役割を果たす所存です。全学が一丸となってその申請のための準備にご協力いただきたく願います。

執行部では、これら国の新制度等への申請に効果的に対処するための新機軸として、大阪大学憲章の基本理念を踏まえ、現在の総長任期および第3期中期目標期間の最終年度となる2021年を見据えた向こう6年間のビジョンである「OU ビジョン 2021」を目下立案しております。そのキーワードは「Openness (開放性)」です。

私は、日本におけるイノベーションが遅々として進まない要因として、組織の内と外の間立ちに厚い「壁」と、その「壁」の内側での狭い「ムラ社会」の存在が大きいと考えています。そこで、学内における部局間の「壁」、また、学内と学外を隔てる「壁」を取り払い、大学の知を広く世のため、人類社会のために開放すること、つまり「Openness」を骨子としたビジョンを策定しております。具体的には、オープンエデュケーション、オープンサイエンス、オープンイノベーション、オープンコミュニティ、オープンガバナンスの五つを柱としています。

こうした指針のもと、「お互いの知が協奏 (concerto) し合い、そして構成員皆で知を共創 (co-creation) する」場の形成を目指して自らの変革を遂げ、大阪大学を世界に名だたる研究型総合大学へと進化させたいと願っています。

これから、五つの柱の各々について具体的に実施したいことを中心に述べていきます。



3-1. オープンエデュケーション

大学は教育機関であるという原点を確認し、「教育の大阪大学」という評価を再度確立すること、これが私の教育に対する基本姿勢です。

そのために忘れてはならないのが、全学共通教育や高度教養教育です。今後は全学共通教育の一層の強化を図り、「全学出動態勢」を再確認し、実質化していきます。他大学も学部から大学院に至る教養教育や共通教育の強化に積極的に取り組んでいます。これはそもそも大阪大学が他大学に先駆け最初に始めたものでした。改めて、日本をリードする高度教養教育を全学体制で構築したく、すべての部局の協力をお願いします。

大阪大学は、すべての分野で研ぎ澄まされた研究を追求しつつ、社会の第一線でリーダーシップを発揮する有為な人材を育成するとの負託に応えることが使命です。とりわけ研究型総合大学として、何よりも大学院教育の充実こそが社会の要請に応える道だと考え、大学院教育の見直しに着手します。

本学では、現在、五つの博士課程教育リーディングプログラムを推進していますが、その成果を本学の大学院教育全体に普及させることが第一の課題です。このプログラムは今後の大学院教育のモデルとも言うべきものであり、決して一過性のプログラムで終わらせてはなりません。むしろ既存の大学院教育改革の起爆剤とすべきものであり、文部科学省からの本プログラムへの補助終了後も全学的なご支援をお願いいたします。

第二に、「社会的要請」に応える大学院教育の実現のため、人文学・社会科学系を中心とした新たな文理融合的学位プログラムの検討を開始します。既存の研究科のディシプリン教育では十分な対応ができていないが、社会的ニーズ、学生のニーズが大きい問題群が存在することが認識され、副専攻プログラムのような形で

の取り組みが学内には多数存在します。こういった取り組みを正当に評価し組み合わせることによって、学位プログラムとして充実させることが重要だと考えています。

第三に、各研究科が抱える諸課題を一元的に集約し、本学の大学院教育全体を俯瞰する観点と合わせて問題点の洗い出しをしたいと考えています。学生の「大学院離れ」が指摘される現在、本学大学院の教育研究力の低下は日本の研究力の低下に直結する深刻な問題です。選抜性が低下している研究科に対しては、その研究科と一体になって改善策を検討したいと思います。

これらの課題に取り組むことを通じて、卓越大学院構想、さらには指定国立大学法人制度への対応の道筋が見えてくると確信します。

3-2. オープンサイエンス

さまざまな研究分野で得られるデータは指数関数的に増大し、多次元・多階層化し続け、今や一つの計測データがエクサバイト(10の18乗の文字分に相当)に迫るものも現れてきています。このようなビッグデータの高度な統合利活用なくして、新しい科学的発見による知的価値の創造や社会的・経済的価値の創出は期待できません。

折しも安倍内閣は「世界最先端IT国家創造宣言」を打ち出し、世界最高水準のビッグデータ利活用社会の実現を今後5年程で達成することを掲げました。また、第5期科学技術基本計画では、人工知能やビッグデータ技術を活用し、人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」の実現、さらには新しい価値に根ざした未来の産業・サービス・ビジネスの創出を謳っています。

そこで私は、世界に先駆け、大阪大学の持つ知能科学技術を集結し、ビッグデータ社会をリードする「データビリティフロンティア機構」を新たに整備したいと考えています。この機構において、本学のすべての学問分野を対象に、実験やシミュレーションのプロセスで得られたビッグデータを蓄積し、高度な統合利活用が行えるプラットフォームを構築します。そのプラットフォーム上で異分野のデータを交差させ、知識統合を図ることにより、新たな融合研究領域での知の創出が可能になります。さらに、エビデンスデータを基盤として、科学技術と社会との接点で生じる倫理的・法的・経済的諸問題など、人文学・社会科学系も含めた学際融合研究を促進することで、まさにオープンサイエンスを体現できる拠点を形成したく考えています。

これらの学際融合研究の推進は、新たな研究手法を体得するオン・ザ・ジョブ・トレーニングの場としても、次世代を担う若手研究者、学生の人材育成にも役立つはずで

す。本構想は、大阪大学のすべての研究者にとって、新たな未来科学の創造に向けての一步であり、全学の研究基盤力強化につながるものと確信し、スピーディに推進していく所存です。

3-3. オープンイノベーション

昨年9月、トムソン・ロイター社から「革新的な世界大学ランキング」が発表され、本学は全世界で第18位、国内第1位にランクされました。大阪大学は世界でもトップクラスのイノベティブな大学としての自信を持って、産業界との連携をさらに力強く前進させます。

その一環として、「産学連携から産学共創(co-creation)へ」をコンセプトに掲げ、新たな社会的価値創出につながるイノベーションを目指します。すなわち、技術的研究開発を中心に進められてきた従来型の産学連携に加え、異業種や異分野を横断した組織的な共創、男女協働による共創、自然科学と人文学・社会科学の壁を越えた共創、基盤研究を実用化研究につなげる共創、技術とサービスの共創など、あらゆる視点で「産学共創」が生まれる大学の実現に果敢に挑戦していきます。

そして「産学共創」のベースにあるのは、結局は人、つまり、人材だということも忘れてなりません。参画する人々が生き生きと活躍し、その豊かな才能、着想、感性が相互に交わることで、社会的価値の創出、すなわち「イノベーション」につながります。

私は大阪大学方式による「産学共創」を通じて、「How to doから、What to do 重視へ」を合言葉に、この世の中で真に何をすべきかを考えられる人材を生み出し、社会と大学との間における人と価値の循環を促進していきます。

3-4. オープンコミュニティ

「男女雇用機会均等法」の施行からちょうど30年にあたる本年4月1日には、「女性活躍推進法」が全面施行となります。

大阪大学では、これまで学内保育園の整備をはじめ、構成員の仕事と生活の両立支援を進め、どのようなライフステージにあっても一人ひとりがその個性と能力を最大限に発揮できる職場環境や研究環境作りを進めてま



いりました。本学の女性教員比率は、昨年5月で13.9%でしたが、男女共同参画型の教育研究活動をさらに充実させるべく、本年4月1日には「男女協働推進センター」を設立する予定です。このセンターの名称にある「協働」は、男女共同参画基本法等の法律の文言にある、「共に同じく」、の共同ではなく、男女が協力して働いていく、「協働」を用いています。これは、共に参加するだけでなく、すべての男女構成員の協力と働きによって、教育研究や組織運営においてこれまでの既成の枠にとらわれない取り組みを推進し、未来型の大学を創っていくという、決意のあらわれです。

学術分野における男女協働の取り組みが遅滞することは望ましくありません。「新しい知の創造」のためにも、本学は、このセンターを拠点に、女性たちが持てる才能を存分に発揮し、多様な知が交差する、しなやかなオープンコミュニティの実現を目指していきます。

さらに、市民や社会と協奏するオープンコミュニティとしての本学は、国境を越え、常に広くグローバルな社会とも緊密につながった存在であり続けなければなりません。

本学では、世界各国の大学や高等研究機関との交流や共同研究が引きも切らず行われており、優れた研究者や学生たちの海外との往来も活発です。このような状況を今後、スムーズかつダイナミックに進められるよう、本年4月からは本部事務機構のなかに「国際部」を新設し、機能強化を図ります。このほか、海外拠点の機能も充実させるなどの体制整備もしていきます。

同時に、私たちは、昨年11月にパリで発生した同時多発テロ事件に象徴されるような海外での危機やリスク要因が高まっている現実から目をそらすことはできません。そこで、本学では大学のグローバル化に伴うリスクや危機に対応する仕組みを強化していく所存です。





3-5. オープンガバナンス

我が国の厳しい国家財政を反映して、国立大学法人の基盤的経費である運営費交付金は、2004年度の法人化以降大幅に削減されてきました。この間、本学の削減額は、104億円にものぼり、これは19%の削減に相当します。そして、本年4月からの第3期中期目標期間においても、運営費交付金関連の状況は引き続き厳しいものが予想されます。このような状況でも、私たちは、工夫を凝らして教育・研究・社会貢献の質や活力を向上させる責務があります。そのために、第3期中期目標期間の6年間を通じた中長期的な財政ビジョンに基づく大学経営の実現に取り組んでいきます。

具体的には、本年4月以降の6年間の財政見通しを明らかにすることで、単年度ごとという短期的な視点に捉われることなく、中長期的な視点に立った、いわば、俯瞰的で戦略的な大学経営を目指します。

たとえば、各部局の教育・研究・社会貢献活動をさらに支援するための学内予算配分に関する新しい施策として、各部局の中長期財政見通しに応じて複数年度にわたっての予算配分調整を行う仕組である「(仮称) 予算調整制度」の創設を目指します。現在、「予算調整制度」の実現可能性を検証中ですが、それが確認できれば、2016年度学内予算配分からこの制度を適用することを予定しています。

これらの施策は、現行の単年度会計の枠組みの中でも、事実上の複数年度会計を実現するという、おそらくは国立大学法人として初めての先導的な取組となります。困難が予想される挑戦とはなりますが、大規模総合大学ならではのスケールメリットを活かした新たな試みであり、私たちは挑戦のために前進しなければなりません。

以上で説明をいたしました、「OUビジョン2021」に関

する重要な施策を実施していくにあたり、本部事務機構の組織を整備し、必要な強化を図る観点から二つの部を新設いたします。一つは先程述べた「国際部」の新設です。もう一つは、大学の重要施策を企画立案する機能を強化させるための「企画部」であり、オープンガバナンスの一翼の強化に資することといたします。ただし、これらの体制整備に係るポストにつきましては、本部事務機構内のポストを振替財源としておりますので、人員の増加を伴うものではないことを申し添えます。

4. 中之島キャンパスの再開発

大阪市北区中之島4丁目地区は大阪帝国大学発祥の地であり、大阪大学医学部、歯学部および理学部があったゆかりの場所です。大阪大学創立70周年記念事業の一環として、2004年4月に大阪大学中之島センターを開発し、今では大阪大学中之島キャンパスとして、本学の社会学連携活動の拠点になっています。

中之島エリアは、古くから大阪の経済・文化・行政の中心地でした。特に、中之島4丁目エリアは、学術・文化・芸術の発信拠点として位置づけられ、既存の大阪市立科学館、国立国際美術館に加え、大阪市による新美術館の整備が予定されています。さらにはJR西日本によるなにわ筋線の計画もある重要なエリアです。

そこで私は、中之島センターを中心とする本学中之島キャンパスを、さまざまなアートの発信拠点として、さらには大阪大学の多くの部局や分野の協力を得て産学共創の拠点となる「中之島アゴラ」構想を練っております。中之島の地で事業を行う企業や諸団体と本学が共に手を携え、大阪から学術や科学技術はもとより、大阪の文化・芸術の息吹をも積極的に発信し、市中心部にぎわいの創出にも是非とも貢献してまいりたいと考えております。

そこで、2021年の大阪大学創立90周年事業の一環として、中長期的にこのエリアをさらに有効利用し、再開発を推進する「大阪大学中之島キャンパス再開発事業」を考え、既にこの事業を目的とした大阪大学未来基金を開発しました。

大阪大学中之島キャンパスの再開発は、大阪大学のみならず、大阪市や大阪府の発展にも資するものと考えております。大阪という地における本学の重要な役割を認識しながら、皆さまの熱い支援を受けて再開発・再利用を進めたく、なにとぞよろしくお願い致します。

5. むすび

冒頭で皆さまに重苦しいお話しをしましたが、大阪大学はマイナスをプラスに変える知恵や乗り越える意志を持ち合せているはずで

私は、昨年10月から始まりましたNHKの連続テレビ小説「あさが来た」を見ながら、元気づけられております。七転び八起きの上をいく、「九転十起」が座右の銘であった広岡浅子がモデルとなっております。大同生命創業者の一人で、日本女子大学の創設にも多大の尽力をした人物です。

彼女の明るさ、元気さ、度胸の良さには心を打たれます。そのほかにも五代友厚や適塾で学んでいた福澤諭吉など、大阪にまつわる多彩な人物が登場しますが、どの人物をとっても前向きで少々のことではへこたれない根性と芯の強さを持っています。大阪というところはやはり昔から常に活気に溢れ、エネルギーに満ちたところだと改めて感じています。

大阪大学は1931年に創設されましたが、当時の地元大阪の経済界や財界、大阪府と大阪市、そして府市民の皆さまからの資金援助、そして何よりも強い熱意の賜でした。

また、2007年に大阪大学と統合しました大阪外国語大学の前身である大阪外国語学校も、海運業で財を築いた実業家・林竹三郎氏と妻蝶子氏の寄付により設立された学校です。

官立でありながら民の力で教育や人材育成のため学校、大学を成長させてきたという大阪は特筆すべき都市です。私は、中之島キャンパス再開発事業をはじめ、大阪大学がどういった形で、こうした民のご支援に恩返しができるか真剣に考えております。その意味でも、本年を「地域へのご恩にいかにか報いるかを考え、実行する元年」とし、構成員の皆さまと一歩ずつ前に進んでいきたいと考えております。

最後に、2021年には、大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年を迎えます。それに向けて次のステップへの土台を築き、将来につなげる意味で、本年2016年は大変重要な年と言えます。皆さま、共に元気で頑張っていきましょう。

ご清聴、ありがとうございました。

平成28年1月4日

大阪大学総長 西尾 章治郎



大阪大学シンポジウム 開催

「成熟する社会の生態系（ネットワーク） —クリエイティブアイランド中之島の共創に向けて—

12月20日（日）、「大阪大学シンポジウム」を大阪国際会議場で開催しました。年末の休日にもかかわらず350席の会場をほぼ満席にする参加者とともに、大阪中之島の将来を共有しました。

今回のシンポジウムは「成熟する社会の生態系（ネットワーク）—クリエイティブアイランド中之島の共創に向けて—」をテーマに、本学発祥の地である中之島のこれまでと、これからについて、教育、文化、芸術、マスメディア、交通、情報発信など様々な視点から語り合いました。

第1部は、基調講演として世界的に活躍されている美術家の森村泰昌さんから、「『路地』スティックな都市文化論」と題してご講演いただきました。路地が存在する森村さんの育った「まち」の話から、市民目線での「町」の在り方、開発されていく「街」の可能性などを、森村さんの経験に即して「まち・町・街」の関係性や、街づくりはロジスティックであることをお話いただきました。



森村泰昌さん

第2部の前半では、中之島を代表する企業等から京阪電車の加藤好文社長、朝日新聞大阪本社の後藤尚雄代表、国立国際美術館の山梨俊夫館長、朝日放送の協阪聡史社長と本学の西尾章治郎総長が登場し、中之島での活動や歴史、将来の展望、大学との連携の在り方などの話題提供がありました。

第2部後半は、前半の話題提供を受けて、各トップの方々によるディスカッションがあり、「中之島のポテンシャルを高めるための、各組織間のネットワークの可能性をどのように考えるのか」、「中之島に大学があることの意義と期待」といった話題で議論が交わされました。

会場内の森村さんからも「中之島再開発に芸術はどうかかわるべきか」の問いかけや、参加された方から「中之島の活性化には大学生の力を借りるべき」や「他都市と比較して、中之島の特徴はどのようなところに見出せるのか」といった質問がでるなど、参加者の知的好奇心を満たすシンポジウムになりました。



加藤社長



後藤代表



山梨館長



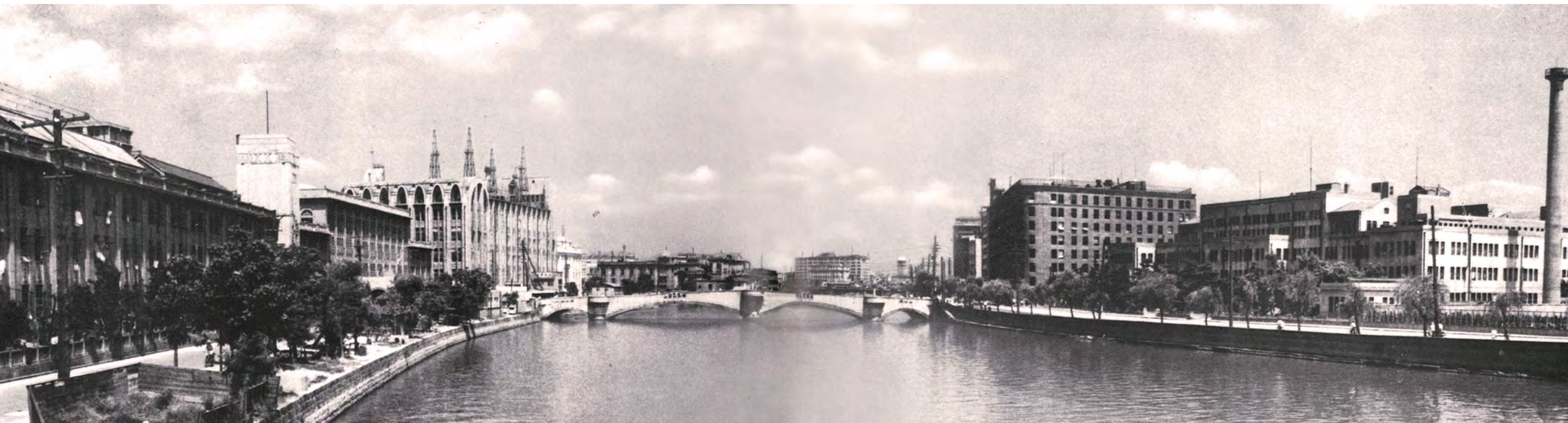
協阪社長



西尾総長



大阪大学 発祥の地「中之島」



堂島川をはさんで医学部(右)、附属病院(左)、中央は田裏橋

今から85年前の1931年、大阪大学は、中之島の地に大阪帝国大学として誕生しました。しかし、1993年の医学部・同附属病院の吹田キャンパス移転を最後に、中之島から大阪大学の姿が消えました。現在は、その跡地に大阪大学中之島センターが建っています。中之島周辺には、美術館、テレビ局や大企業、公的機関のビルが多数並び、文化・芸術の集積地となっています。

そもそも中之島とは一体どういう地なのでしょう？

今回の特集では、1997年7月から1998年1月まで当時の学報(現在の阪大NOW)に連載されました脇田修名誉教授の「大阪大学夜話」をもとに、大阪大学発祥の地、「中之島」を振り返ります。

※参考文献：学報No.524～526(1997.9～11)「大阪大学夜話」第三～第五話 から
※本特集で使用している資料で特に表記のないものは「写真集 大阪大学の五十年」から転載しています。

大阪大学夜話 『大学の旧地(1)』

大阪大学 名誉教授 脇田 修

現在、大阪大学は、旧帝国大学時代の土地を離れて、吹田と豊中に集中している。ここではその旧地の歴史について記しておこう。

大阪帝国大学は、大阪市北区中之島と堂島に医・理学部などがあり、工学部は都島にあった。いずれも島とつく地名なのは、淀川下流の中島だからである。とくにこの中之島・堂島は大阪の心臓部になっており、近くには大阪市役所・大阪高等裁判所・朝日新聞社などの重要施設が並んでいる。まず、この歴史を書いてみよう。

堂島の地名の由来は、地形が鼓の胴に似ている、また天王寺の御堂建設の資材をおいた、薬師堂があった、小川某の五花堂があったなど、さまざまな意見がいわれているが、よくわからない。

ただこの辺には、中世では崇禅寺の領地があった。崇禅寺は細川持賢が將軍義教の菩提を弔うために建立したもので、中世では大寺院であり、近世では遠城兄弟を生田伝八郎が返り討ちにするという珍しいことがあり、芝居になった崇禅寺馬場の仇討ちがあった。いまは阪急京都線の駅名だけが知られている。

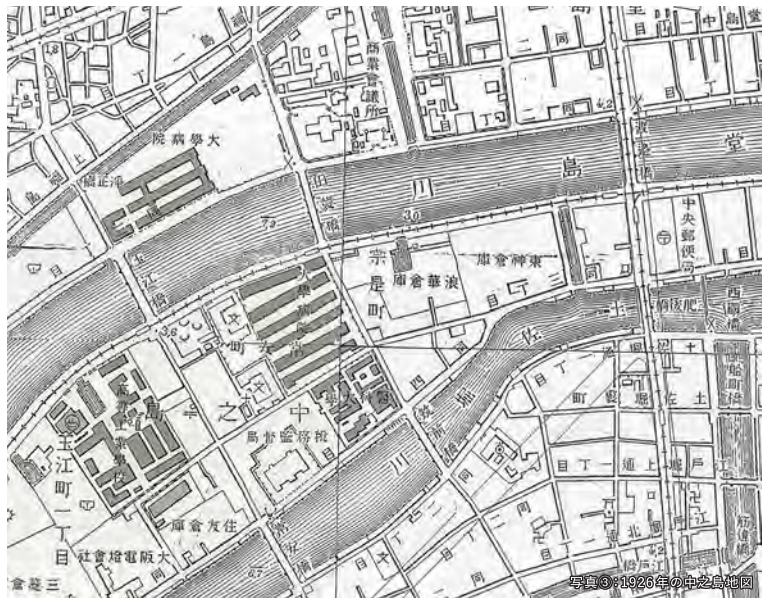
さて寛政2年(1462年)の寺領目録には、北大阪一帯の寺領が記されている。おもしろいのは阪急本社のある梅田の角田町が、「埋田之内角田」として出てくるので、私はそれをよく紹介している。さて、ここには曾根崎・福島・国分などとともに堂島も出てくる。それは7反220歩と1反138歩の畠で、広い方の土地の東隣は福蔵庵の田地であるが、他は河となっている。いかにも大川の中島らしい土地に、ようやく田畠が開けていったことを思わせる。これが中世堂島の風景であった。

もうひとつ中世の堂島を伝えてくれるのは、田蓑橋である。世阿弥の謡曲「芦刈」は、落ちぶれて芦売りになっていた男が、天王寺で妻と再会して都へ帰るとい筋で、なにわを舞台にした名曲であり、谷崎潤一郎に同名の小説があることでも知られる。この曲では、なにわの名産である深江(大阪市東成区)の菅笠に因んで、笠づくしの「笠の段」が見せ場になっている。なにわは水辺で、葦・芦や菅が繁る土地であるので、芦刈りや菅笠を取り入れた内容になっている。笠の段は「雨に着る、田蓑の島もあるなれば、露も真笠の笠はなどかなかるらん」と謡いはじめ、舞い終わって、笠をさっと投げる。ここに田蓑の島が謡われている。今は田蓑島とはいわないが、旧医学部本館の前の堂島川には田蓑橋(写真①、②)が架かっていて、中世からの由緒ある地名を伝えている。

このようにみると、大川の中の島とはいえ、中世以来の由緒をもった土地であることがわかる。



1981年頃の中之島地区



写真③ 1926年の中之島地図



中之島地区一帯手前中央が医学部川をへたてて附属病院(1931年)



昭和初期の大阪御堂筋(大阪市産業大前より)



写真① 田蓑橋(1931年)



写真② 田蓑橋(1997年 学報No.524から)

『大学の旧地(2)』

前回に続いて大阪大学の旧地について記しておこう。元の本部などがあった地域は、近世に入って開発された土地である。

今はないが、かつては中之島3丁目から6丁目にかけては、宗是・常安・次郎兵衛・小倉屋仁兵衛・庄村新四郎・塩屋六左衛門と人名のついた町が多かった。これは開発者の名を町名にしたものと考えられる。また大阪帝国大学の北の堂島川には、前回に触れた田蓑橋と玉江橋があるが、南の土佐堀川には、筑前橋と常安橋さらに下流には越中橋が掛かっている(写真③)。これも往年の歴史を示すものである。

この地域には各藩が年貢米や特産物を国元より運び、販売するため、蔵屋敷がおかれていた。そのため水運の便のよい大川の周辺、中之島・堂島辺には130余の蔵屋敷がおかれた。大阪大学の旧地は、幕末には広島・久留米などの蔵屋敷があった。もっとも今は蔵屋敷はなくなり、近代

建築がならんでいて、かつての有り様を偲ぶことはできない。そのなかで筑前・常安などの橋名のみが、わずかにその歴史を伝えてくれる。

さて筑前橋は、筑前・黒田家の蔵屋敷前にあった橋である。黒田家は如水黒田孝高・長政を始祖とし、福岡を城下町とした52万石の大名である。蔵屋敷の建物はないが、その長屋門が残っていて、天王寺の大阪市立美術館横に移築され、往年の蔵屋敷群のなかで、唯一の遺構として姿を止めている。また越中橋、肥後橋も同様で、肥後の細川越中守、肥後殿の橋である。

これに対して常安橋は、淀屋の初代である淀屋常安の架けた橋である。淀屋は山城の淀から出たといわれるが、初期からの豪商であり、大名貸をおこなっていた。將軍綱吉の代に淀屋は取り潰されるが、その屋敷前に架けた橋が淀屋橋で、御堂筋にあり、大阪の中心地となっている。常安橋はあまり知られていないが、

これも淀屋の架けた橋であった。おそらく中之島の開発にからんで架橋したのであろう。

現在なら、橋は国や府・市の公共団体が架け、管理しているが、近世では異なっていた。幕府は防衛などの観点から必要な橋しか作らなかったから、水の都といわれ百数十の橋があった大坂でも、幕府の架ける公儀橋は、大川にかかる天満・天神・難波の諸橋や東横堀に架かる高麗橋などの12橋だけであった。それ以外は受益者負担もいところで、近くの町や個人・藩が架けたのであった。例えば、戎橋なども周辺の10以上の町が管理していて、もっとも近い町が多くを負担し、遠くなると少しずつ減額することにしている。

大阪大学の旧地である中之島辺では、藩や豪商が必要に応じて架橋したのであった。



大阪府立高等学校病院



福澤諭吉誕生地(当時)(学報No.526)

『大学の旧地(3)』

さて、創立年次の早い医学部から見ていこう。

大阪での医療・医学教育は、緒方洪庵の適塾などの伝統もあって、かなり早かった。

明治元年(1868年)仮病院、翌年には大阪府病院がつくられ、医学教育がおこなわれたが、そののちいくつかの変遷を経て、西本願寺派の津村別院内にあった大阪府病院は、明治12年(1879年)中之島4丁目に移転して大阪公立病院となり、さらに大阪府立病院・医学校などとなり、明治36年(1903年)大阪府立高等医学校となった。そして大正4年(1915年)大阪医科大学に昇格した。これが大阪帝国大学医学部の前身である。

さて大阪大学医学部の旧地は、大阪公立病院が旧広島藩蔵屋敷跡の官有地に移ってきたことに始まる。これは木造であるが、中央に洋風の尖塔をもつ、当時としては華麗な建物である。写真が残っているが、病院前には人力車が多数待っている。今の病院前のタクシーの行列を思わせる。

本部の対岸には、医学部病院があった。元は病院も医学校とともにあったが、大正6年(1917年)病院から失火して、大学本部などを焼いたさい、この再建にあたって、病院が対岸に移ったのであった。

ここは現在の大阪市の行政区分では大淀区福島になっている

が、元は堂島のなかにあり、近世では堂島新地5丁目にあたる。ここの堂島川と蜷川(曾根崎川)にはさまれた島であった。この蜷川の梅田堤は、近松の「曾根崎心中」のお初徳兵衛の道行でしられるが、蜷川は明治42年(1909年)の北の大火のあと焼失した家屋などの瓦礫によって埋め立てられ、道路となっている。

さて、堂島という思い浮かべるのは、日本の米相場を左右した堂島米市場であるが、これは東部の舟大工町にあった。西部の病院付近には、幕末には尾張・秋田・久留米・延岡・中津・富山など諸藩蔵屋敷があった。中津藩蔵屋敷は福澤諭吉が生まれた所で、誕生地の碑が建っているし、病院内には産湯の井戸跡が示されていた。明治政府は蔵屋敷を官有地としたので、ここには公共施設ができた。そのなかには堂島中学校・堂島女学校もあったが、これがのちに移転して北野高校・大手前高校となった。

● 脇田 修(わきた おさむ) プロフィール

1931年大阪生まれ。京都大学大学院博士課程単位取得。京都大学文学博士。大阪大学文学部教授、文学部長、評議員などを務める。94年大阪大学名誉教授。大阪大学出版会会長、大阪歴史博物館館長などを歴任。



現在の中之島

役員室 だより

新理事紹介

理事
(人事労務、事務組織担当)

鬼澤 佳弘
(きざわ よしひろ)



【略歴】

- 昭57. 4 文部省入省
- 平 8. 4 文部省体育局学校健康教育課学校健康教育企画官
 - 9. 4 文部省体育局競技スポーツ課オリンピック企画官
- 10. 7 成田市教育委員会教育長
- 13. 7 文部科学省大臣官房教育改革官
- 13. 7 文化庁文化部宗務課長
- 14. 7 日本学術振興会総務部長
- 16. 7 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課長
- 18. 4 文化庁文化部芸術文化課長
- 19. 1 文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課長
- 21. 4 千葉県教育委員会教育長
- 24. 7 文部科学省大臣官房付
- 24. 9 文部科学省大臣官房審議官
- 25. 10 独立行政法人日本スポーツ振興センター理事
- 27. 10 文部科学省大臣官房付
- 28. 1 国立大学法人大阪大学理事

濱口道成国立研究開発法人科学技術振興機構理事長との意見交換会を開催

11月12日(木)、役員及び本部幹部職員等を対象に、濱口道成国立研究開発法人科学技術振興機構理事長(前名古屋大学総長)との意見交換会を本部事務機構で開催しました。

科学技術・学術審議会会長及び名古屋大学総長としての豊富なご経験を踏まえ、「大学運営の現状と課題」と題して、「国立大学を取り巻く厳しい現状」「地域経済を支える国立大学の役割」「基礎研究の重要性」「大学改革の要点」など大学経営に必要な幅広い内容について講演いただきました。

その後の意見交換では、濱口理事長と西尾章治郎総長の間で名古屋大学での先進的な男女共同参画の取り組みについて質疑応答が行われ、制限時間一杯まで様々な質疑応答が行われ、大変盛況な意見交換会になりました。



濱口理事長

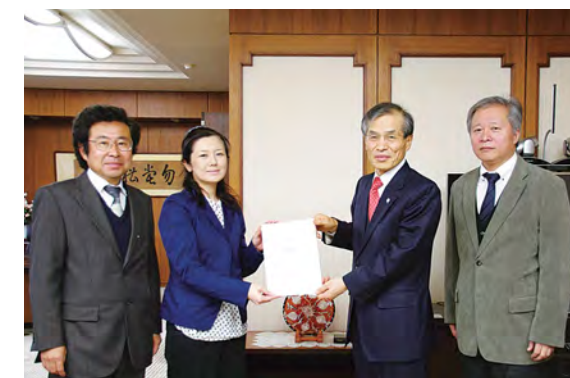


CAS-Net JAPAN 第1回サステイナブルキャンパス賞奨励賞受賞

11月13日(金)、千葉大学で開催されましたサステイナブルキャンパス推進協議会 2015年次大会において、「第1回サステイナブルキャンパス賞」の表彰式が行われました。

本学は、「低炭素からサステイナブルキャンパスに向けた先進的な取り組み」により奨励賞を受賞しました。

環境イノベーションデザインセンターの協力のもと、使用電力可視化システムを用いた分析に基づく省エネルギー対策の立案、大学会館における省エネ改修(nZEB化)、3件のESCO事業、ESCO事業に関連した熱源シミュレーションモデルの開発等の取り組みが評価され、第1部門(キャンパスのサステイナビリティに配慮した建築・設備部門)において高い評価を受けました。



〔各室の取り組み〕

総合計画室

【平成26年度の業務実績評価結果について】

平成26年度の業務の実績に関する評価結果が国立大学法人評価委員会から公表されました。

本学は、「大学に求められる課題に柔軟かつ機動的に取り組み、積極的な大学改革を進めることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでいる」と評価され、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「産業競争力強化法の規定による出資等」の各事項については、「順調に進んでいる」との評価を受けました。

一方で、法令遵守に関する課題として、「研究費の不適切な経理」、「個人情報の不適切な管理」が挙げられ、「その他の業務運営」の事項については、昨年度に引き続き、「やや遅れている」との評価を受けました。

法令遵守違反が起きますと、第2期中期目標期間として、厳しい評価を受けることとなりますので、そのような事案が生じることのないよう、ご留意をお願いします。

なお、評価結果については、本学公式ウェブページに掲載しています。トップページから、「評価結果」で検索してご覧ください。

【平成26年度の部局達成状況評価について】

10月から11月にかけて、平成26年度の部局達成状況評価を実施しました。

この部局達成状況評価は、各部局における平成26年度計画の達成度の確認、平成27年度計画の推進等に活用いただくものであり、ひいては、部局が中期計画を達成するために活用していただくためのものです。

平成26年度は、第2期中期目標期間の5年目に当たり、多くの部局においては、中期目標・中期計画の達成に向けて、順調に進捗しており、また、PDCAサイクルを適切に回転させるなど、着実な自己評価・点検を行っていると判断できました。

各部局におかれては、平成27年度計画及び中期計画の達成に向け、本評価書を活用いただきますよう、お願いします。



第3期中期目標・中期計画(原案)の概要

中期目標の前文

- 大阪大学は、その源流である懐徳堂と適塾の精神を継承し、世界に開かれた大学、世界に貢献する大学となることを志す。
- **多様な知の協奏と共創**によって、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求する。
- 新たな学術領域の創成、専門分野を超えた知の統合学修を通じて地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出する。

■第3期中期目標・中期計画(原案)の主要事項

| 教育 | 研究 | 社会貢献・社会連携 | グローバル化 | 業務運営 |
|--|--|---|--|--|
| <p>高度な専門知識と豊かな教養、高いデザイン力を有し、社会を牽引する「知」を備えた人材を育成。</p> <p>✓ 新たな学位プログラムの構築、高度汎用力教育プログラム等の実施</p> <p>✓ 教育の質保証と国際標準化(シラバスの実質化、科目番号制の導入等)</p> <p>✓ 学事暦の改革によるグローバルな教育交流の強化</p> <p>✓ 新たな総合入試制度を平成29年度から導入し、入学定員の約10%を受け入れ</p> | <p>イノベーションの推進や心豊かで平和な社会の実現のため、学内の多様性を強みとした異分野融合による新たな学術領域の創造と学術研究の推進により、学問の真髄を究める基礎・基盤研究を振興。</p> <p>✓ 国際共同研究推進プログラムをはじめとする様々な制度を活用した国際ジョイントラボ等を増加(平成33年度末までに80件)</p> <p>✓ 異分野融合を含めた学術領域を創成するための母体となる組織の設置(平成33年度末までに10領域程度)</p> <p>✓ 優れた業績を誇る研究者の招へい(評価運動型年俸制、クロス・アポイントメント制度等の活用)</p> <p>✓ 若手研究者の支援(若手研究者キャリアアップ支援プログラムやチャレンジ支援プログラム等)</p> | <p>社会ニーズを先取りしたオープンイノベーションを創出すべく、産学官の戦略的かつ包括的な連携を強化・推進し、本学の研究成果を国内外に広く還元。</p> <p>✓ 協働研究所や共同研究講座等の阪大方式の産学連携制度を深化(平成33年度末までに新規テーマに取り組む講座・研究所を40以上設立)</p> <p>✓ 研究者の研究成果公開などの活動(アウトリーチ活動)の推進</p> | <p>徹底した「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、多様な知の協奏と共創を具現化する世界展開力を強化。</p> <p>✓ 学生の海外派遣増加、留学生の受入増加(平成33年度末までに派遣8%、受入15%)</p> <p>✓ 大学間学術交流協定の増加(平成32年度末までに120件)</p> <p>✓ 外国人教員の増加(平成33年度末までに400名程度)</p> | <p>総長のリーダーシップのもと、機動的・弾力的な組織運営を行い、構成員の合意形成と透明性の確保を旨とする経営戦略に基づくガバナンスを構築。</p> <p>✓ 大学の強みや特色を生かした機動的なガバナンス体制を構築</p> <p>✓ 学内資源の戦略的な配分</p> |

なお、評価結果については、本学公式ウェブページに掲載しています。トップページから、「達成状況評価」で検索してご覧ください。

【第3期中期目標・中期計画(原案)について】

第3期中期目標・中期計画(素案)については、6月末に文部科学省に提出しましたが、その後、新執行部の理念を表すため表現を改めるとともに、文部科学省から主に記述の具体化や一般的に分かりやすい表記に改めるなど素案の修正を求められ、記述の修正を行った上で、原案としてとりまとめました。

なお、第3期中期目標・中期計画(原案)の概要は左ページのとおりです。

【第3期中期目標期間中の部局の基本理念、年度計画について】

第3期中期目標期間中の部局における基本理念・年度計画等について、第3期中期目標期間における確定評価においてより良い評価を獲得することを目指すこと、作業の負担軽減・効率化を図ることなどを目的として、下記のとおり制度を再構築することにしましたので、お知らせします。

第3期中期目標期間中の部局が策定する基本理念・年度計画等について

1. 部局が策定する基本理念・年度計画について

大学の中期目標・中期計画に一对一に対応する中期目標・中期計画の策定を止め、次のような枠組みとする。

- ・大学の中期目標・中期計画の方向性、国立大学法人評価での現況調査表の観点や踏まえ、教育、研究、社会貢献、グローバル化等について、第3期中期目標期間中にどのような方針の下で各部局の強み・特色を活すのかについて基本理念を整理する。(項目については、部局の判断により追加・削除可能とする。グローバル化については、当該項目に教育・研究等のグローバル化に関する記述をまとめる又は他の項目の記述と重複しても可とする。)
- ・上記で整理した基本理念に基づき、年度計画及び年度計画に係る成果指標を策定する。なお、医学部附属病院及び歯学部附属病院については、当該部局の活動・取組が大学の中期計画に直結することから、大学の中期計画に対する年度計画を策定することを基本とし、その他としてグローバル化等の計画があれば策定することができる仕組みとする。

2. 全学的に重視する教育・研究指標について

全学的に重視する指標として、第3期中期目標・中期計画に係る指標、スーパーグローバル大学事業に係る指標を中心に以下の指標を設定する。

各指標については、年度終了後に各部局に対して当該部局に係る過去6年間の経年のデータを提示し、部局として6年間の経年変化をどう捉えているかのコメントを提出するよう求める。

なお、現時点での想定される指標であり、概算要求で設定した評価指標等も加味して今後追加等の可能性がある。

- ①専任教員に占める外国籍及び外国の大学で学位を取得した教員の割合(外国籍教員数/全専任教員数、外国の大学で学位を取得した教員数/全専任教員数)
 - ②専任教員に占める女性教員の割合(女性教員数/全専任教員数)
 - ③正規学生に占める外国人留学生の割合(外国人留学生数/全正規学生数[学部・大学院別])
 - ④日本人正規学生に占める単位取得を伴う留学経験者の割合(留学経験者数/全日本人正規学生数[学部・大学院別])
 - ⑤授業科目における外国語による授業科目の割合(外国語による授業科目数/全授業科目数[学部・大学院別])
 - ⑥専任教員に占める年俸制適用者の割合(年俸制適用者数/全専任教員数)
- ※④及び⑤を除き5月1日現在を想定。④及び⑤は年度の実績値を使用。

○組織評価(達成状況評価)における活用等について

第1期及び第2期中期目標期間における部局達成状況評価と理念は変わらず、負担軽減を図った評価を毎年度実施する予定としており、上述の「1. 部局が策定する基本理念・年度計画」における年度計画毎の実績、「2. 全学的に重視する教育・研究指標」における年度毎の状況などを踏まえて、部局の強みや特色をさらに伸ばしていくことへの支援の視点、及び全学の取り組みへの貢献度合いなどを総合的に勘案して詳細を検討の上、追ってお知らせする。

現在、1月29日(金)を提出期限として、部局の基本理念及び平成28年度年度計画・年度計画に係る成果指標の作成を依頼しておりますので、ご協力よろしくをお願いします。

教育室

【スーパーグローバル大学構想への取り組み】

本学の教育改革にとって重要な、スーパーグローバル大学構想の推進に向けて、さまざまな取り組みを開始しています。以下その概要を説明します。

1. スーパーグローバル大学創成事業推進委員会の設置
構想推進のための司令塔として、さまざまな施策を責任を持って実行するための委員会を設置しました。教育担当理事を委員長とし、教育室員および各室の筆頭室員から構成される委員会です。教育室などに設けられている施策検討のための会議体からの提案を本委員会で統括、推進していきます。

2. 地区部局長会議での協力要請

本構想は時間の制約の下、トップダウンで策定・応募されたため、各部署が我がごととして取り組むという意識の醸成が不十分でした。そこで、地区部局長会議において構想の進捗状況や今後の課題を説明し、部局からの要望について意見交換を行い、構想実現に向けての協力をお願いいたしました。

3. 各種懸案事項の検討の進捗

各部署から懸念が表明されていた学事暦改革については、当初の改革案を含む三つの案（考え方を説明するモデル）を各部署に提示し、ご意見を伺いました。10月末までに全部局から回答をいただき、現在、教育改革推進会議の学事暦検討専門部会において、検討を重ねているところです。年度内には成案を確定する予定です。

また、今後の大学のグローバル化にとって重要な留学生の増加策についても、教育室の元に新たにワーキンググループを設置しました。インバウンド、アウトバウンド両面での留学生増加策とそれに関わる諸問題（リスク管理等も含む）の検討をしていきます。

【施設整備とキャンパス環境の改善】

◆吹田福利会館

吹田福利会館は、平成29年4月のリニューアルオープンに向けて、平成28年1月から一部建替えを含む改修工事を着工します。

「周辺に多くの人が集い、広がりを感じられる賑わい空間の創出」をコンセプトに工学生協通りと一体的なオープンスペースを計画しています。食堂の席数を増加し混雑緩和するだけでなく、書籍コーナーやサービスカウンターの充実も図ります。加えて、工学研究科のオープンラボなどを新たに整備します。

なお、工事期間中も福利施設の一部は利用できますので、ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



吹田福利会館 イメージパース

研究推進室

○学内研究支援プログラムを実施しています

大阪大学の研究力強化に向けて、様々な学内の研究支援事業を実施するとともに、制度の見直し・検討や採択課題の審査などを行っています。

平成28年度は新たに以下の支援事業を実施する予定です。

| |
|---|
| 事業名：知の共創と協奏プログラム 応募資格者：異なる研究分野の常勤教員3名以上からなる研究グループ 支援内容：事務局経費、シンポジウム開催経費、会議費、旅費等 |
|---|

平成28年度の各種支援プログラムの募集は、平成28年1月頃から順次開始しますので、マイハンドアイをご覧ください。

平成27年度は、以下の事業を実施しました。

| 事業名 | 応募資格者 | 支援内容 |
|---------------------------|---------------------------|------------------------------------|
| 国際共同研究促進プログラム | 常勤教員 | 外国人研究者の旅費・謝金、教職員・学生の派遣旅費、研究員の雇用経費等 |
| 国際共同研究促進プログラム（短期人件費支援） | 常勤教員 | 外国人研究者の人件費、往復旅費 |
| 国際合同会議助成事業 | 常勤教員 | 会議実施に必要な経費 |
| 国際シンポジウム開催支援事業 | 常勤教員 | シンポジウム開催に必要な経費 |
| 研究者派遣／受入れプログラム | 若手・女性の常勤教員 | 旅費 |
| サバティカル支援制度 | 常勤教員 | 代替教員の人件費 |
| 大阪大学未来研究イニシアティブ・グループ支援事業 | 全ての研究者 | 事務局経費、シンポジウム開催経費、会議費、旅費等 |
| 大阪大学未来知創造プログラム | 45歳以下の准教授、講師又は助教3名の研究グループ | 共同研究の実施に必要な経費、研究成果の取りまとめに必要な経費 |
| チャレンジ支援プログラム | 科研費基盤(C)及び若手(B)最終年度の研究代表者 | 研究費 |
| 若手研究者キャリアアップ支援プログラム | 39歳以下の常勤研究者 | 研究費 |
| 博士課程学生海外派遣支援事業 | 大学院生 | 旅費、学会参加費、学会抄録集代等 |
| 大阪大学未来基金若手研究者支援事業 | 大学院生 | 旅費、学会参加費、学会抄録集代等 |
| 人文・社会科学系研究成果の国際的発信支援プログラム | 常勤研究者 | 出版・翻訳に係る経費 |
| 英語論文の投稿支援事業 | 若手・女性・外国人の常勤研究者 | 英文校正支援、投稿支援、アフターケア |
| 若手教員ホームページ作成支援事業 | 若手・女性・外国人の常勤教員 | ホームページ設置・刷新に必要な経費、相談 |
| 旅費支援事業 | 全ての教員 | 大型プロジェクトのヒアリング等面接審査に係る旅費 |
| 模擬ヒアリング | 全ての教員 | 大型プロジェクト応募に係る模擬ヒアリングの実施 |
| 科研費相談員制度 | 科研費応募資格者 | 科研費研究計画調書等へのアドバイス |

財務室

平成27年9月の発足以降、小川哲生理事・副学長（財務、情報担当）のもと、本学の安定的な財政運営の確保と財務基盤の強化に向けて、日夜検討を重ねています。

今回は、新たな学内支援制度である「予算調整制度」（仮称）の導入についてお知らせします。

厳しい国家財政のもと、基盤的経費である運営費交付金の削減が継続し、部局に対する物件費予算配分額の減少傾向が継続することが想定されます。このため、予算配分方法に関する工夫を最大限に図ることで、各部局の運営を支援することを企図して、各部局の中期財政見通しに応じて複数年に亘る予算配分調整を行う仕組みである「予算調整制度」（仮称）の創設を検討しています。

現在、同制度のフィージビリティを検証中ですが、可能であれば、平成28年度学内予算配分から同制度を適用することを予定しています。

今後も引き続き、財政運営上の創意工夫を重ね、各部局の教育研究の活性化と大阪大学の発展に繋がる施策を企画立案して参ります。学内構成員のご理解とご協力をお願いいたします。



グローバル連携室

徹底した「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、多様な知の協奏と共創を具現化する世界展開力を強化することを目標としています。

具体的には、学生・研究者の国際交流を促進するため、海外の大学等との大学間学術交流協定に係る締結戦略を策定し、積極的な締結を進めるとともに、海外拠点等をグローバルキャンパスの一環と位置付けて体系的に整備・拡充し、その活動を活発化させるための検討を進めていきます。

9月以降の主な実績としては、総長、理事・副学長による学長会議等への出席（約10件）、海外の大学等からの学長・副学長レベルの表敬訪問（約20件）があり、既存の交流促進及び新規交流の可能性に係る協議等が活発に行われました。

次年度以降も、学長会議や本学が参画するコンソーシアム等に係る会議に加え、協定校等が主催する式典等への招待が相次いでおり、戦略的な交流を展開すべく、これらの機会を積極的に活用していく予定です。



日本・スウェーデン学長会議に出席した学長による集合写真（10月3日（土）開催、スウェーデン大使館）

※各会議及び表敬訪問の概要は、本学公式ウェブページに掲載しております。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/news>

産学連携室

本学の産学連携に関する方針の決定や方向性の審議、大学全体の産学連携の司令塔として関連委員会に対する提言、実施部隊である産学連携本部の機能の最大化を図ることを目的として、産学連携室が新設されました。新しい産学連携のステージとして「産学連携から産学共創へ」を掲げ、本学の卓越した研究成果の社会還元を目指して、イノベーションの創出とオープンイノベーションの促進を行います。現在、「共同研究講座」「協働研究所」は、全学で40講座（研究所）を超え、次期中期計画では、さらに40件の新設を目標にしております。昨年7月31日には、大学に対する出資事業（官民イノベーションプログラム）で設立した大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社（OUVC）がOUVC1号ファンドを立ち上げ、事業を開始しました。また、産業界のニーズに応えられるグローバルな視野を持ち、革新的イノベーションの創出に貢献できる人材の育成を図ります。今後も、教職員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



男女共同参画・社会学連携室

男女共同参画、社会学連携に関するイベントを実施

1. 第8回男女共同参画シンポジウム

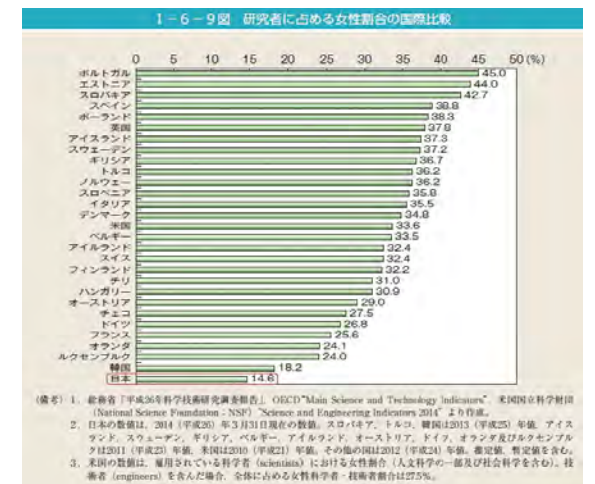
（10月15日（木）大阪大学銀杏会館）

大阪大学では、これまで、学内保育園の整備や、仕事と家庭の両立支援事業を推進してきましたが、女性教員比率13.9%（H27.5.1現在）という数値に見られるように、男女共同参画型の教育研究活動が十分に実践されているとは言えない状況にあります。今年度の男女共同参画シンポジウム「待たなし! 202030 -女性研究者数値目標-」では、西尾総長の開会挨拶に続き、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）科学技術プログラム推進部プログラムオフィサーの山村康子先生に、国際的に見た日本の女性研究者の現状と、各大学が取り組む女性研究者支援のグッドプラクティスを中心にご講演いただきました。

（※詳細は、「阪大Eやん男女共同参画ニュース」No.1に掲載しておりますのでご覧ください。）



西尾総長 開会挨拶「大阪大学の発展と男女共同参画」



研究者に占める女性割合の国際比較
（男女共同参画白書（平成27年度）より抜粋）

2. 第7回大阪大学×大阪音楽大学ジョイント企画
「境界面上の音楽界 箏と光の競演」

(11月23日(月・祝) 大阪大学会館)

大阪大学×大阪音楽大学ジョイント企画は、21世紀懐徳堂、大阪音楽大学連携支援センター、豊中市の連携協力事業として、豊中市内にある両大学がそれぞれの持ち味を生かし、地域社会への貢献を柱に、科学技術に対するリテラシー向上を含めた広い意味での芸術・文化活動に貢献することを目的として実施しているものです。

今回は、本学コミュニケーションデザイン・センターの久保田テツ特任准教授が総合司会を務め、大阪音楽大学の片岡リサ講師の箏、西本淳講師のサクソフォン、井手智佳子さんのピアノ演奏と本学クリエイティブユニットの伊藤雄一准教授による光の演出との競演をお届けしました。

演奏会では、伊藤准教授が開発した座布団型インターフェース「sense chair」で演奏者の体の動きを捉え、この情報を基に映像に変化させ、演奏に合わせてスクリーンに映し出すという試みが行われました。トークセッションで演奏が映像に変化させる仕組みが明かされると、約300人の参加者から驚きの声があがりました。

大阪大学と大阪音楽大学の様々な持ち味が溶け合い、融合した音楽会は、大盛況のうちに幕を閉じました。



▲右から演奏を分析する伊藤雄一准教授と久保田テツ特任准教授、片岡リサ講師(箏)、西本淳さん(サクソフォン)、井手智佳子さん(ピアノ)

仕事と家庭の両立支援のためのプラスONE(短期教育研究支援)制度を新設

これまでの研究支援員制度(長期支援)に加えて、次のように、短期的・一時的な支援が必要となった場合に利用できるプラスONE(短期教育研究支援)制度を開始しました。学生アルバイトの雇用が可能になり、また、シッター経費の補助を行います。詳細は、本学公式ウェブページに掲載しています。

掲載URL:

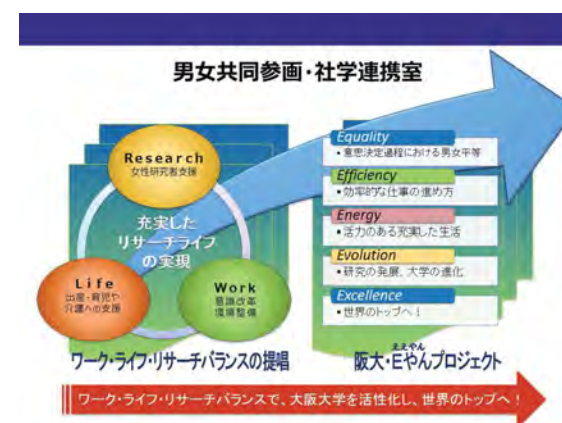
<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/diversity/gender>

未来基金「女性活躍支援事業」について

ダイバーシティを根幹に据えて世界屈指の研究型総合大学をめざす総長ビジョンを具体化するために、男女共同参画・社会学連携室が新設され、全学的に男女共同参画を加速化させていくこととなりました。これを機に、女性の活躍を求める社会の要請に応じて、本学の女性構成員のいっそうの活躍を応援するべく、大阪大学未来基金に「女性活躍支援事業」を新設しました。修学・研究・キャリア支援のさらなる充実を図ることで、大阪大学が、優秀な女性構成員の活躍できる場になるよう、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳細は、本学公式ウェブページに掲載しています。

掲載URL:

https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/gender/?donate_purpose=55



人事労務室

○新たな運営組織の整備に伴う管理職手当の改定について

8月31日開催の臨時教育研究評議会において、組織規程の改正に基づき、新たな運営組織が整備されたことに伴い、管理職の範囲及びその職責区分について以下のとおり見直しを図るとともに、関連の就業規則を改正しました。

| 新たに管理職とする職種 | 職務内容 | 職責区分 | 備考 |
|-------------|----------------------|------|-------------------------|
| 総長参与 | 総長の求めに応じ、意見を具申する | II種 | |
| 総長特命補佐 | 総長から特に指示された事項の処理に当たる | IV種 | |
| 副理事 | — | V種 | 各室規程第4条第1項第1号の室員を副理事とする |

(参考) 管理職手当額(教(一)5級)

| 職責区分 | 手当額(月額) |
|------|----------|
| II種 | 300,000円 |
| III種 | 250,000円 |
| IV種 | 80,200円 |
| V種 | 66,800円 |
| VI種 | 42,800円 |

危機管理

Crisis Control

事故・事件



トラブル



火災



漏洩

危機（事故・事件・トラブル等）は残念ながら必ず起きてしまいます。危機が起きたときはわたしたちの想像以上にたくさんの対応が必要になります。

危機管理の基盤としての緊急連絡体制

あなたの職場での緊急連絡網を再確認しましょう！

大阪大学では危機事態発生時の連絡体制を明確にし、危機を適切に管理できるように努めています。（管理体制等は安全衛生管理部の学内専用HPを参照）

危機管理には初動、特に第一報がとても大切です。危機的事態が発生あるいは発生するおそれのある場合、事態を認識してから**30分以内**に安全衛生管理部へご連絡ください。

安全衛生管理部へ

勤務時間内 06-6879-4023

休日・夜間等 090-6826-2804



STOP！研究費不正

不正使用とは・・・

「故意若しくは重大な過失による競争的資金等の他の用途への使用又は競争的資金等の交付の決定の内容やこれに付した条件に違反した使用」です。
※金額の多寡に関わらず不正使用になります。

不正使用を起こさないために・・・

- 「再発防止策」の確実かつ継続的な実施
- 研究費の使用ルール等を確認し、適正（公正かつ効率的等）に使用
- 研究者は機関（大学）とともに研究費の管理（支出計画と進捗管理）・運営を適切に実施 等

※詳しくは、「公的研究費使用ハンドブックー正しく理解し、正しく使うためにー」またはHP「公的研究費の不正使用防止への取組」をご確認ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/fuseiboushi>

虚偽書類の作成は犯罪です！

虚偽書類の作成は不正使用（預け金、品名替、カラ出張、カラ給与等）になり、犯罪行為です。

不正使用者に対しては、氏名公表、研究費返還、配分機関の処分、大学の懲戒処分など、刑事告訴を含めて厳しく対応します。

不正使用の根絶に向けて一人一人が適切な経費の管理と執行を！

【問い合わせ先】

不正使用防止計画推進室
電話：06（6879）4767

研究費の原資は国民の税金です。研究費の不正使用は国民に対する裏切りです。大阪大学は研究費の不正使用に厳格に対応し、不正使用が起きない、起こさない環境づくりに取り組んでいます。

STOP! 研究費不正

研究費の不正使用に係る通報窓口

監査室
電話：06（6879）4071
FAX：06（6879）4074



不正使用防止計画推進室

はい！大阪大学渉外本部でございます！

～未来基金でできる39のこと～



渉外本部のメンバー

大阪大学未来基金を通じて行える各種支援事業が39あることをご存知でしょうか？

未来基金は、若手研究者や学生の海外留学等の支援を行っていますが、『大阪大学中之島キャンパス再開発事業』や、『〇〇学部の教育研究』、『〇〇クラブの活動』といった特定の事業の支援もしており、まさに大阪大学の未来を創るために欠かせない大切な資金です。この『大阪大学の力になりたい』という熱い思いがいっぱい詰まった未来基金を管理し、それらで行われる事業を実りあるものにするべく日々奔走しているのが「大阪大学渉外本部」。

平成27年5月から寄付募集の渉外担当として働く吉田富士江さんと中村麻貴さんに、活動をお聞きました。

プロジェクト一覧

- | | | |
|--|---|---|
| <p>〈大学のプロジェクト〉 大阪大学中之島キャンパス再開発事業</p> <p>〈学部・研究科等のプロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文学研究科・文学部「教育ゆめ基金」 ② 人間科学部・人間科学研究科教育研究推進事業 ③ 法政教育研究事業(外国語学部教育研究事業) ④ 青雲教育研究事業(法学部・法学研究科・高等司法研究科教育研究事業) ⑤ 経済学部・経済学研究科教育研究事業 ⑥ 理学部・理学研究科教育研究事業 ⑦ 医学系研究科・医学部教育研究事業 ⑧ 健康長寿イノベーション・医学研究事業(医学部保健学科・保健学専攻教育研究事業) ⑨ 歯学部・歯学研究科教育研究事業 ⑩ 薬学部・薬学研究科教育研究事業 ⑪ 工学部・工学研究科教育研究事業 ⑫ 基礎工学部・基礎工学研究科教育研究事業 | <p>〈課外活動等のプロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 体育会硬式庭球部支援事業 ② 体育会アメリカンフットボール部支援事業 ③ 体育会硬式野球部支援事業 ④ 体育会卓球部支援事業 ⑤ 体育会ヨット部支援事業 ⑥ 体育会サッカー部支援事業 ⑦ 体育会ラグビー部支援事業 ⑧ 体育会漕艇部支援事業 ⑨ 体育会アイスホッケー部支援事業 ⑩ 体育会バドミントン部支援事業 ⑪ 医学部ボート部支援事業 ⑫ 未来へ繋がるエコ活動支援事業(環境サークルGECS支援事業) | <p>⑬ 課外活動等支援事業</p> <p>〈その他のプロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 適塾記念事業 ② 総合学術博物館運営助成事業 ③ キャリア支援事業 ④ 女性活躍支援事業 <p>〈目的指定なし〉 創立100周年ゆめ募金</p> |
|--|---|---|

(平成27年12月末時点)



中村さん



「オランダの水政策を調査」



「タンザニア・マサンニで保健職員と」



「スイス連邦工科大学チューリッヒ校へ」

未来基金で実現した学生の海外留学・研究留学の様子です。



吉田さん

未来基金は 応援して下さる方あってこそ

「電話をかけても『渉外本部』という部署はどこにあるのか、実際に大学内に存在する部署なのか信じてもらえず、アポイントを取ることが難しいこともあります」と中村さん。

吉田さんも「未来基金は応援して下さる方があってこそ事業なので、時間がかかったとしても、お一人お一人丁寧にじっくりとお話を伺うことに重点を置いています」と話す。

2人は、主に個人を対象として卒業生や名誉教授などを訪ね、未来基金を紹介する活動を行っています。大阪大学の職員が外に出て寄付募集の渉外活動をする場合は、これまでに周年募金といった場合を除いてほとんどなかったとのこと。そのため、「新卒の詐欺かと疑われたこともあり」と吉田さん。

阪大愛を聞き 阪大愛に目覚める

「名誉教授の先生にお話を伺うと、皆さん声をそろえて『今の自分があるのは大阪大学のおかげ』と阪大への感謝を話されます。また、例えば工学部出身の先生からは『ノーベル賞なんか獲らなくても、うちは社会に役立つ技術や成果がたくさん出てるやろ。そっちの方が凄いや』とおっしゃったり、皆さん大阪大学を誇りに思っているのがヒシヒシと伝わってきて、大阪大学のために一層頑張ろうという気持ちになります」と(吉田さん)



▲大阪大学研究情報ポータルサイト「ResOU」に設けられている「研究を支援する」専用ページ

意識を高く 自分たちは阪大の「顔」

渉外本部は小川理事のもと2人のほかに、未来基金の企画・運営・立案を担当する教員2名、寄付金などの管理を行う未来基金事務局の職員5名の10名体制。一定額以上の寄付者を招いての総長主催『感謝の集い』といったイベントも開催するなど、幅広く活動しています。

一般からの問い合わせが多いのも特徴で、その対応いかんで、大阪大学への不信感につながってしまいかねないため、電話一本の受け答えを特に大事にしているそう。誠実な印象を持ってもらえるように、声の大きさやトーン、受け答えの適切さに気を付ける等、全員が当たり前のことをきちんとできるように心がけているとのことでした。

寄付の文化を育みたい

昨年度で全11学部の教育研究を支援するためのプロジェクト事業がそろい、この他にも研究所・センターや学生の課外活動を支援するプロジェクト事業も増えつつあります。

吉田さんは「基金を増やすことは大切ですが、私たち2人の仕事が『寄付の取り立て』になってはいけなく考えています。未来基金の設立趣旨や事業内容に賛同いただくのがまず第一で、その延長線上にあるのが寄付だと思っています。少し大層な言い方をすれば寄付の文化を育みたいですね。この仕事は、そのための土壌作りだと思います」と語っています。

阪大にどんな支援があればいいか、良いアイデアが閃いた方は渉外本部へお問い合わせしてみは。きっと爽やかな声が出迎えてくれます。

大阪大学未来基金：
平成21年5月に設置。これまでの受入実績は約40億円となっている。国際交流、学生支援、研究者支援、社会貢献の4本柱で数多くの支援事業を行う。今年度の学部生への自主研究奨励事業もその一つ。

Re:本(リポーン)プロジェクト：
不要になった本やCD、DVDの査定額を手軽に寄付できる取組。「本のやり場に困る大学の先生は多いと聞きます。無料で引取りに来てくれますし、掃除の成果が寄付になるので、楽しんで取り組んでもらえれば」と中村さん。(※詳しくはWebへ。大学の図書資産(資産番号の押印、ラベル貼付してあるもの)は扱えないのでご注意ください。)



今年度、学部生のための自主研究奨励事業も行いました。



▲Re:本プロジェクトの啓発漫画

〈大阪大学 未来基金 ホームページ〉
<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>

表彰・受賞等

— 平成27年度永年勤続表彰者 —

平成27年11月24日

| | | | |
|-----------------|-------|----------------------|-------|
| 総長室 | 藤本浩司 | 医学部附属病院 | 松尾温代 |
| 財務部財務課 | 澤田進介 | | 高鳥慶子 |
| 教育推進部教育企画課 | 越智学 | | 豊田郁子 |
| 教育推進部学生・キャリア支援課 | 岡田行弘 | | 猪原美代 |
| 教育推進部学生交流推進課 | 矢田昌子 | | 東丈雄 |
| 施設部管理計画課 | 塩谷隆志 | 医学部附属病院総務課 | 中澤綾子 |
| 施設部整備課 | 森哲也 | | 藤里尚宏 |
| | 岩田真一 | 医学部附属病院管理課 | 篠本麻里 |
| 環境・エネルギー管理課 | 岡田志津 | | 乾満晴 |
| ハウジング課 | 深井明 | 工学研究科総務課 | 木村かおり |
| | 長屋直美 | 工学研究科経理課 | 高橋俊宏 |
| 全学教育推進機構等 | 阿部究美 | | 田邊圭美 |
| 渉外本部 | 三好裕美 | 工学研究科研究協力室 | 山口智 |
| 文学研究科 | 泉史恵 | 基礎工学研究科 | 牧野寿美子 |
| 人間科学研究科 | 松本安啓 | 言語文化研究科・外国語学部豊中事務室 | 吉野真理子 |
| | 高木芳倫 | 言語文化研究科・外国語学部箕面事務室 | 小河原哲也 |
| 医学系研究科教務室 | 安國久美子 | 生命機能研究科 | 竹内弘 |
| 医学部附属病院 | 砥綿成美 | 蛋白質研究所 | 川上恵子 |
| | 菊地麻里子 | 社会経済研究所 | 小川育子 |
| | 新谷栄子 | 科学機器リノベーション・工作支援センター | 宮本浩之 |
| | 井手紀世 | レーザーエネルギー学研究センター | 金内竜太 |
| | 西山久美 | | |

人事

— 理事 —

| | | |
|-----------|------|-------------|
| 平成28年1月1日 | 鬼澤佳弘 | 人事労務、事務組織担当 |
|-----------|------|-------------|

— 新部長 —

| | | |
|-------------|----------|------|
| 平成27年10月31日 | 微生物病研究所長 | 松浦善治 |
|-------------|----------|------|

— 新教授 —

| | | |
|-------------|------|---|
| 平成27年10月16日 | 原隆浩 | 【所属】情報科学研究科 マルチメディア工学専攻マルチメディアデータ工学講座 【前職】本学准教授 【最終学歴】H9.3 大阪大学大学院工学研究科情報システム工学専攻博士前期課程修了 |
| 平成28年1月1日 | 椎葉淳 | 【所属】経済学研究科 経営学系専攻モデル解析講座 【前職】本学准教授 【最終学歴】H15.2 大阪大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程修了 |
| | 西村幸浩 | 【所属】経済学研究科 経済学専攻政策分析講座 【前職】本学准教授 【最終学歴】H14.5 カナダクイーンズ大学大学院博士課程後期修了 |
| | 山田康博 | 【所属】国際公共政策研究科 国際公共政策専攻国際公益システム講座 【前職】本学准教授 【最終学歴】S63.3 広島大学大学院社会科学部社会科学部博士課程前期修了 |
| | 長澤丘司 | 【所属】生命機能研究科 生命機能専攻個体機能学講座 【前職】京都大学 【最終学歴】H5.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程病理系専攻修了 |
| | 井上裕滋 | 【所属】接合科学研究科 附属スマートプロセス研究センター 【前職】新日本製鐵株式会社 【最終学歴】S60.3 大阪大学大学院工学研究科溶接工学専攻博士前期課程修了 |

訃報

| | | |
|--------|-----------|----------------|
| 法学部 | 覚道豊治 名誉教授 | 平成27年11月10日 逝去 |
| 蛋白質研究所 | 泉 美治 名誉教授 | 平成27年12月13日 逝去 |
| 経済学研究科 | 真田英彦 名誉教授 | 平成28年1月3日 逝去 |
| 工学研究科 | 大中逸雄 名誉教授 | 平成28年1月6日 逝去 |
| 教養部 | 山本邦夫 名誉教授 | 平成28年1月10日 逝去 |
| 工学部 | 近江宗一 名誉教授 | 平成28年1月12日 逝去 |

阪大ほっとニュース

環太平洋大学協会 (APRU) Global Health Workshop を開催

10月30日(金)から11月1日(土)にかけて、環太平洋大学協会 (APRU) Global Health Workshop 2016を大阪大学の主催で開催しました。

今回のワークショップは、グローバルヘルス全般をテーマに南カリフォルニア大学、国立台湾大学、シンガポール大学、北京大学、ソウル大学校等のAPRU加盟校をはじめ、71大学から、20か国、243名の参加があり、グローバルヘルスに関する最先端研究及び重点的取組みについて活発な議論や意見交換がなされました。



大阪大学「保護者の集い」を開催

大学祭(まちかね祭)開催期間中の11月3日(火・祝)に、大阪大学会館において、学部1年生の保護者を対象とした「保護者の集い」を開催し、本会場、サテライト会場ともに満席となる600名を超える多くの方にご参加いただきました。

この催しは、保護者の方々に大学の運営状況や、教育・国際交流・学生支援などの実状について理解を深めていただくとともに、大学をより身近な存在に感じていただくことを目的として昨年に引き続き開催されたものです。



大阪大学タイ同窓会を開催

11月7日(土)、バンコク市内のホテル「ブルマン・バンコク・グランデ・スクンピット」で大阪大学タイ同窓会が開催され、西尾章治郎総長、星野俊也理事・副学長、Ittichai Arungsrisangchai タイ同窓会会長、熊谷信昭同窓会連合会会長、福田和弘咲耶会バンコク支部長と同窓生、大阪大学教職員等65名が参加しました。各参加者は親交を深め、盛会のうちに終了しました。



国際シンポジウム「南部陽一郎の物理学」を開催

11月16日(月)、大阪大学豊中キャンパスの大阪大学会館において、昨年7月に逝去された南部陽一郎 大阪大学特別栄誉教授(2008年ノーベル物理学賞受賞)を追悼する国際シンポジウム「南部陽一郎の物理学 (International Symposium on Yoichiro Nambu's Physics)」が開催され、南部先生とともに物理学を歩んできた国内・海外の研究者や、物理学を志す若い研究者・学生など、約200名の参加がありました。



大阪大学ツアー 2015 を開催

11月21日(土)、大阪府教育委員会が指定する10校の進学指導特色校(グローバルリーダーズハイスクール (GLHS))の高校生を対象に、大阪大学の特徴や魅力について紹介する特別企画「大阪大学ツアー2015」を開催しました。

会場の全学教育推進機構大講義室には、10校から約300名の生徒が集まり、はじめに小林傳司理事・副学長が大学概要説明と、自身のエピソードを交えながら変わりつつある大学と学問の姿について話しました。

その後、参加者は4グループに分かれ、特別講義を受講しました。

講義は、模擬法廷を使用するものや、受講した生徒自らが参加する双方向性の高いもの等、いずれも高校生の知的好奇心を喚起するよう工夫が凝らしたものと、参加者からは「興味深い内容で面白かった」「高校生活では味わえない貴重な体験ができた」等の意見が多く寄せられました。



「大阪大学感謝の集い」を開催

11月27日(金)、中之島センターで、大阪大学未来基金に一定のご寄付をいただいた皆様をお招きし、「大阪大学感謝の集い」を開催しました。

当日は72名の出席があり、報告会と懇親会を実施しました。報告会では、西尾章治郎総長から大学の近況について、小川哲生理事・副学長から未来基金の活動状況について報告があり、その後大竹文雄教授(社会経済研究所)による講演が行われました。

懇親会では、未来基金で支援を受けた学生による研究活動の報告もあり、ご参加いただいた皆様と大阪大学との絆を深める機会となりました。



「大阪大学の集い(東京)」に過去最多の550名が参加

12月5日(土)、「大阪大学の集い」を東京・神田の学士会館で開き、主に関東方面在住の大阪大学・大阪外国語大学の卒業生、大学関係者ら「阪大ファミリー」約550名が集いました。卒業生向けイベントでは、過去最多の参加者数です。

第1部のセレモニー・講演会では、西尾章治郎総長が大学の近況報告を行い、熊谷信昭大阪大学同窓会連合会会長(元総長)からのあいさつ、部局同窓会関東・東京支部を代表して池田博昌大阪大学工業会東京支部長からの活動報告がありました。

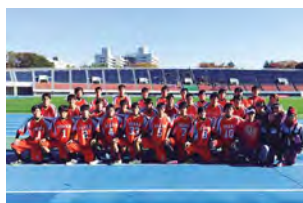
続いて、石黒浩特別教授(基礎工学研究科)が、「ロボットと未来社会」と題して講演。最新の研究成果から人間の未来形までエキサイティングな話に、満席の参加者は熱心に聴き入りました。

第2部の懇談会は、法学部同窓会青雲会の西畑一哉東京支部長の乾杯の発声でスタート。今回は、卒業・修了から15~17年にあたる卒業生に特に案内し、久しぶりの再会を喜び合う姿など、会場いっぱいには歓談の輪が広がりました。



学生の活躍!

男子ラグロス部が第7回全日本大学選手権大会準優勝の快挙!



日本最大の学生政策提案イベント「ISF」日本政策学生会議」で法学部国際公共政策学科ゼミが3連覇達成



大学の地域貢献度ランキングで阪大が15位に

12月7日発行の日経グローバル(日経新聞社産業地域研究所発行)281号で、全国751の国公私立大学を対象に、大学が人材や研究成果をどれだけ地域振興に役立っているかを見る地域貢献度の調査結果が発表されました。大阪大学は産官学連携の強みなどが評価されたことにより、総合順位で15位(昨年22位、一昨年18位)にランクされました。

「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする大阪大学は、世界をめざすだけでなく、地域(地元)や市民と協調しながら総合大学としての役割と社会貢献を果たしていきます。

日経グローバルホームページ

<http://www.nikkei.co.jp/rim/glweb/backno/no281.html>

退職教授の記念講義

平成28年3月31日限りで定年等で退職される教授の記念講義(最終講義等)を日程等の決まったものについてお知らせします。最新情報は本学公式ホームページ「イベント情報」で随時更新します。

| 部局(専攻・部門等) | 氏名 | 日時・場所 | 講義題目 |
|------------------------------|--------|--|---|
| 文学研究科 文化動態論専攻 | 江川 温 | 平成28年3月18日(金) 14:00 ~ 16:00 法経講義棟1階 経第1番講義室 | 修道士共同体の伝承と宣伝 —「聖ベネディクトスの奇蹟」を読む—(仮題) |
| 人間科学研究科 人間科学専攻 | 宇阪 満里子 | 平成28年2月6日(土) 15:00 ~ 中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール | (未定) |
| 経済学研究科 経済学専攻 | 澤井 実 | 平成28年1月25日(月) 16:20 ~ 17:50 法経講義棟1階 1番講義室 | 戦時日本経済史に学ぶ |
| 医学系研究科 医学専攻 | 吉峰 俊樹 | 平成28年3月1日(火) 16:00 ~ 17:30 医学部講義棟1階 A講堂 | 脳神経外科という医学 |
| 医学系研究科 保健学専攻 | 依藤 史郎 | 平成28年3月9日(水) 16:30 ~ 18:00 保健学科講義棟 第1講義室 | (未定) |
| 歯学研究科 口腔科学専攻 | 姜 英男 | 平成28年2月4日(木) 15:30 ~ 17:00 歯学研究科D棟4階 大講義室 | (未定) |
| 工学研究科 電気電子情報工学専攻 | 北山 研一 | 平成28年2月5日(金) 15:30 ~ 17:00 電気系メモリアルホール E1-115 | フットネットワークの絶えざる技術革新の中で —産官学を経て— |
| 工学研究科 電気電子情報工学専攻 | 谷野 哲三 | 平成28年2月8日(月) 16:30 ~ 18:00 電気系メモリアルホール E1-115 | 数理工学の道を歩んで |
| 工学研究科 電気電子情報工学専攻 | 橋原 敏明 | 平成28年2月12日(金) 15:30 ~ 17:00 電気系メモリアルホール E1-115 | 集積光電子デバイス研究教育40年 |
| 工学研究科 マテリアル生産科学専攻 | 平田 好則 | 平成28年2月16日(火) 13:00 ~ 14:30 岡田メモリアルホール R1-312 | 溶接から接合へ、そして… |
| 工学研究科 地球総合工学専攻 | 加藤 直三 | 平成28年2月19日(金) 13:00 ~ 14:30 理工学図書館ホール | 海に学び、海と人を守る |
| 工学研究科 生命先端工学専攻 | 福井 希一 | 平成28年2月19日(金) 15:00 ~ 17:00 工学部C3棟5Fサントリーメモリアルホール | 研究者という人生 |
| 基礎工学研究科 システム創成専攻 | 岡村 康行 | 平成28年2月29日(月) 16:00 ~ 17:30 基礎工学 国際棟シグマホール | 基礎工学者としての来し方を振り返って |
| 基礎工学研究科 システム創成専攻 | 糸崎 秀夫 | 平成28年3月4日(金) 15:30 ~ 17:00 基礎工学 国際棟シグマホール | 超電導からセキュリティーセンシングまで |
| 言語文化研究科 日本語・日本文化専攻 | 三原 健一 | 平成28年3月16日(水) 14:30 ~ 16:00 箕面キャンパス A416教室 | 言語—理論と記述と様々なもの— |
| 国際公共政策研究科 国際公共政策専攻 | 野村 美明 | 平成28年2月16日(火) 14:40 ~ 16:10 国際公共政策研究科棟講義シアター2階 | 国際取引の促進と法—その方法と機能 (Methods and Functions of Law for the Promotion of International Trade) |
| 情報科学研究科 情報数学専攻 | 八木 厚志 | 平成28年1月21日(木) 15:30 ~ 17:00 情報科学研究科B棟1階 B101講義室 | 応用数学研究40年を振り返って |
| 情報科学研究科 情報システム工学専攻 | 今井 正治 | 平成28年3月4日(金) 15:30 ~ 17:00 情報科学研究科B棟1階 B101講義室 | What's new? —イノベティブな研究のために— |
| 生命機能研究科 個別機能学講座 | 濱田 博司 | 平成28年3月11日(金) 16:00 ~ 17:00 銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール | (未定) |
| 高等司法研究科 法務専攻 | 松川 正毅 | 平成28年2月9日(火) 14:40 ~ 16:10 法経講義棟1階 法第2番講義室 | 法におけるデュオ |
| 微生物病研究所 遺伝情報実験センター | 安永 照雄 | 平成28年3月11日(金) 13:30 ~ 15:00 融合型生命科学総合研究棟1階 谷口記念講堂 | (未定) |
| 微生物病研究所 生体防御研究部門 | 菊谷 仁 | 平成28年3月11日(金) 15:30 ~ 17:00 融合型生命科学総合研究棟1階 谷口記念講堂 | (未定) |
| 産業科学研究科 第2研究部門(材料・ビーム科学系) | 磯山 悟朗 | 平成28年3月11日(金) 15:30 ~ 17:00 産業科学研究科 管理棟1階講義室 | 電子加速器の高度化と高輝度放射光の発生 |
| 蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門 | 吉川 和明 | 平成28年3月5日(土) 15:00 ~ 16:30 蛋白質研究所本館1階 講堂 | Necdinの四半世紀 |
| 蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門 | 長谷 俊治 | 平成28年3月11日(金) 15:30 ~ 17:00 蛋白質研究所本館1階 講堂 | 長年担当した植物生化学の最終講義 |
| 蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門 | 田嶋 正二 | 平成28年3月19日(土) 15:00 ~ 16:30 蛋白質研究所本館1階 講堂 | 膜蛋白質、油、そしてDNAメチル化 |
| 接合科学研究科 加工システム研究部門 | 高橋 康夫 | 平成28年1月26日(火) 13:00 ~ 14:30 接合科学研究科 荒田記念館 | 環境調和界面接合プロセス |
| 接合科学研究科 接合機構研究部門 | 片山 聖二 | 平成28年3月10日(木) 15:00 ~ 16:30 接合科学研究科 荒田記念館 | レーザ溶接・接合の現象解明 —幸運な研究生— |
| 接合科学研究科 機能評価研究部門 | 村川 英一 | 平成28年3月22日(火) 15:00 ~ 16:30 接合科学研究科 荒田記念館 | 溶接計算科学が拓くものづくりの世界 |

【大阪大学シンポジウム】 共創に向けた新しい協奏のかたち ～ オープン化が進む時代の「知」の役割～

日時／平成 28 年 3 月 2 日（水） 13:00～17:00（12:30 開場）

会場／インターコンチネンタルホテル大阪 2階 HINOKI

（大阪市北区 グランフロント大阪北館タワーC）

定員／300名（要予約・先着順）無料

◎申込方法

2月5日（金）よりWEBにて受付

[WEB申し込みフォーム] <http://osku.jp/sympo160302>

阪大シンポ 2016 で 検索

※詳細は、本学HP イベント情報をご覧ください



第1部

基調講演1

「知の協奏と共創からオープンイノベーションへ」

大阪大学総長 西尾 章治郎

基調講演2

「オープンイノベーションの進展に向けたパナソニックの取組み」

パナソニック株式会社代表取締役社長 津賀 一宏氏

取組報告

「オープンイノベーションの時代の博士人材とその育成」

大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム

プログラムコーディネーター・教授 藤田喜久雄

第2部

パネルディスカッション

「オープン化が進む時代の価値創造と知の役割」

【パネリスト】

上新原十和氏（サントリービジネスエキスパート株式会社 品質保証本部安全性科学センター課長）

河原 克己氏（ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター副センター長）

小松 洋介氏（特定非営利活動法人アスヘノキボウ代表理事、女川町商工会職員）

西村佳壽子氏（パナソニック株式会社 先端研究本部デバイス研究室イメージセンシング研究部イメージングデバイス研究課主幹研究員）

服部 滋樹氏（graf 代表・クリエイティブディレクター）

山崎 吾郎（大阪大学 超域イノベーション博士課程プログラム特任准教授）

小林 傳司（大阪大学 理事・副学長） ※大学外 50 音順

【司会】

八木 絵香（大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター准教授）

今年も掲示板による合格発表が行われます

【掲示場所】 大阪大学吹田キャンパス ICホール1階屋外

【掲示日時】 前期日程合格者：3月9日（水）9時～15時

後期日程合格者：3月22日（火）9時～15時

平成 27 年度大阪大学卒業式・大学院学位記授与式

開催日時：平成 28 年 3 月 28 日（月）11:30～13:10

10 時入場開始 11 時入場完了

開催場所：大阪城ホール

平成 28 年度大阪大学入学式

開催日時：平成 28 年 4 月 4 日（月）13:30～14:30

開催場所：大阪城ホール



（昨年の合格発表）